

平成 29 年度 四国横断自動車道 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会
第 8 回検討会での質問に対する回答について

第 8 回検討会における傍聴者の方々からのご質問についてお答えします。

○質問－ 1

「環境保全に関する検討会」なのですから、調査結果の環境影響評価も議論すべきではないでしょうか？

◆回答－ 1

各種モニタリングの調査結果については、検討会の前に各委員に確認いただき、事業の影響についての意見に対応した上で検討会を開催しております。今後も、検討会・部会の進め方に関しては、引き続き、委員からご指導、ご助言をいただきながら適切に進めていきたいと考えております。

○質問－ 2

シギ・チドリ類の影響の検討について H29 年 5 月までの調査結果を含めてすべての評価すべきではないでしょうか？H28 年 10 月から H29 年 5 月で、全部の橋脚工事が完了し、H29 年 5 月の飛翔調査結果は、明らかに影響をうけていると思います。春の渡り、冬の越冬季への工事の影響は大きいので。（調査結果データ集）「6-9」「6-10」「6-11」「6-12」の結果より

◆回答－ 2

第 8 回検討会の資料にて、平成 29 年 5 月までの調査結果を提示したとおり、台船の設置に伴う飛翔高度の変化は認められるものの、台船の有無に関わらずシギ・チドリ類は渡河部を飛翔している状況が確認されています。この飛翔高度の変化については、検討会の設立当初より予測されており、第 2 回検討会（平成 28 年 1 月 16 日開催）で策定した環境保全対策（原案）でも渡り鳥の飛翔に配慮した橋梁形式を検討してまいりました。また、構造物を建設する以上、今後も飛翔高度が変化するものと予想されますので、適切に環境モニタリング調査を実施し、その影響を注視してまいります。

第 2 回検討会 <http://corp.w-nexco.co.jp/newly/h26/0116/>

○質問－ 3

5-14 H28/4 の確認个体数が減少した理由について、言い訳けされていたが、このような減少が視察された時、速かに工事の休止はされたのでしょうか。それぞれの調査時点の結果をその都度吟味して、悪影響が危惧されるという視点から対応して頂きたい。

◆回答－ 3

平成 28 年 4 月の鳥類調査ではシギ・チドリ類の生息个体数が減少していますが、5 月の調査では多く確認されております。調査結果については、まとまった段階で各委員に適宜確認していただいております。調査中に工事休止の対応は行っておりません。今後も、環境モニタリング調査の結果及び影響評価については、委員からご指導、ご助言をいただきながら適切に進めていきたいと考えております。

第8回検討会では傍聴者の方々から意見・要望を頂きました。

○意見・要望－1

「自然の変化の影響であって、工事の影響ではない」という根拠を示すためにも、橋脚設置場所周辺のせまい場所ではなく、調査範囲を広げて、調査し議論していただきたい。

◆回答－1

環境モニタリング調査の調査計画は、第4回検討会（平成26年8月27日開催）にて策定され、以降は調査結果や工事の実施状況を踏まえて、適宜、見直ししてまいりました。今後も、環境モニタリング調査の調査内容については、委員からご指導、ご助言をいただきながら適切に進めていきたいと考えております。

第4回検討会 <http://corp.w-nexco.co.jp/newly/h26/0827/>

○意見・要望－2

左岸 小松海岸の調査は、底生生物シギ・チドリ調査を実施してください。横断道渡河橋そのものの影響を評価するのに必須です。

◆回答－2

上記の回答－1と同じ回答とさせていただきます。

○意見・要望－3

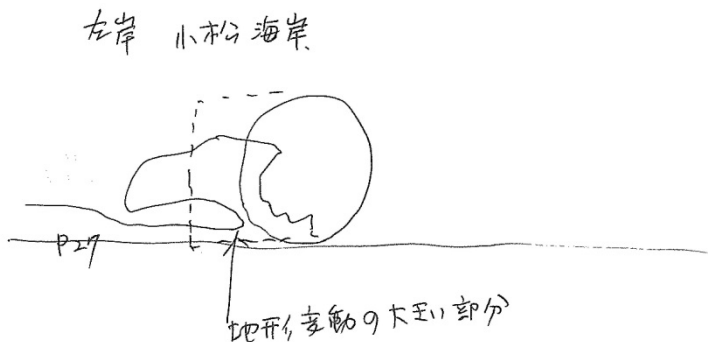
小松海岸は今切川まで、範囲を広げて、調査していただきたい
鳥への影響の要因がふくざつになったのであれば、関連性がわかる調査方法や解析方法を検討してほしい

◆回答－3

上記の回答－1と同じ回答とさせていただきます。

○意見・要望－4

底生生物の調査範囲について、



底生生物の調査は、○ 地域ですが、□ の陸とつながった範囲も調査して、橋の影響を検討していただきたい。

◆回答－４

上記の回答－１と同じ回答とさせていただきます。

なお、第１回環境部会（平成 25 年 9 月 13 日開催）より、吉野川河口の地形は一定ではなく、出水の状況、波浪や潮流の影響によって大きく変化し続けるものであり（自然のゆらぎ）、その変化の中で環境保全対策を行うこと、環境モニタリング調査を実施することとしております。また、第 8 回委員会における委員の意見の通り、河口干潟の地形変化や、右岸側と繋がったことは、吉野川河口の長期的な変化の中で生じる自然現象であり、工事の影響によるものではないと考えております。

○意見・要望－５

NEXCO の説明は、ていねいではありますが、せっかくお忙しい委員が、出席されている検討会が説明に時間を費やしすぎて残念です。検討会で、審議する時間が全然ありません。環境検討会でほとんど議論できなかったのが環境影響について、議論する環境部会を別途開催すべきではないでしょうか？今回委員のご意見があまり出されなかったと思います。

◆回答－５

検討会の開催にあたっては、限られた時間の中でも十分な審議が行えるように、予め各委員に検討会の資料をご確認頂いて意見や質問をいただき、要望された資料については、検討会で提示するように対応しています。

なお、御指摘の質問時間の確保については、配慮していきたいと考えます。

○意見・要望－６

P37 5-13 H28.5 に比し、H29.5 工事に伴い明らかにシギ・チドリ類の飛翔が抑えられている。代償策が求められる。

◆回答－６

シギ・チドリ類の飛翔個体数は、例えばハマシギが数百個体で飛翔することがあることや、マリンピア沖洲人工海浜、小松海岸と河口干潟を往来するような飛翔によって飛翔個体数が突出して多くなる場合があります。また、検討会で鳥類に対する影響評価として最も注目されているのは、吉野川河口全体におけるシギ・チドリ類の生息個体数であり、調査結果では減少が認められません。

○意見・要望－７

鳥類調査でコクガン等の希少種が渡来しなくなったことが分る。河口部に渡来してきた希少種を守る施策がとられるべきだ。

◆回答－７

本意見は、渡り鳥が越冬地として吉野川河口を選択することに関するご意見と推察いたします。

希少種は個体数が少なく、さらに渡り鳥は日本規模、あるいは世界規模で渡っていること、調査日は年に 4 日という条件であることから、特定の希少種が飛来する要因を把握することは困難と考えられます。そのため、鳥類に関する事業の影響評価としては、個別の鳥類に注目するのではなく、シギ・チドリ類全体の生息、飛翔状況から判断する方針とさせていただきます。